

【奈良文化幼稚園】令和3年度 学校評価 自己評価書 I 教育活動に関するもの

教育目標	1. 健康で 元気に 満ちた 子どもに育てる。 2. 感受性や 創造性の 豊かな 子どもに育てる。 3. ひとり立ちが でき 誰とでも仲良く遊べる 子どもに育てる。
-------------	--

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画・教育課程	①教育目標の設定	園の教育理念や教育方針を理解し共有できたか。	「遊び中心の教育」を展開し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の実現に向けた取り組みを行った。	B	A	毎日の生活を通して、子どもの育ちの見方が深められるよう話し合いを繰り返し、情報を共有することで取り組みを進めてきた。	園児の生活の様子を学年で共有することで、一人ひとりの育ちが理解できるようさらに取り組みを目指す。また園生活の様子を保護者に発信する方法を考えていきたい。
		②教育計画の作成	園の方針を教育計画や保育に活かし、遊びの環境を充実させる。	園庭環境は、子どもの動きに合わせて、調整を続けた。維持管理については、講師先生の指導を受けて改善を続けている。室内環境は保育者が中心となり行った。	A		講師先生の指導を受けることでよりよい環境になるように、整備を行うことにした。さらに、教員それぞれがアイデアを出すことで、よりよい環境になるよう努めている。	遊びの環境づくりについて教員間で話し合いを進めている。園庭環境については、年月が進むとともに改良が必要になるため専門家を含めたプロジェクトチームを編成し、さらに改良を加えたい。
		③教育要領に基づいた教育課程の編成	発達の特徴を踏まえ、園生活全体を通して具体的なねらいと内容を作成できたか。	「わんぱくの森」の活動を中心に各学年の発達に応じた取り組みを考え、教育要領に基づいた教育課程の編成を行った。	A		職員全員で話し合いすることで、園児の実態を把握し、発達の段階に即した教育課程の実現に取り組んだ。	1人ひとりの個人目標を設定することでさらにクラスを詳しく見つめることができた。今後も、丁寧な保育の実践に努めたい。
		④教育活動の評価	園の目指す幼児の姿を具体的に共有し、園長を中心に教職員で協力して、その実現に向けて教育活動を行ったか。	子ども達の主体的な活動を引き出すために教職員で話し合い、園児一人ひとりが生き生きと輝く実践を進めた。	A		例年通りのやり方にとらわれることなく、新しい試みを行うことで、クラスや学年や園全体で教育活動を行った。	日々の園生活を通して子どもの実態把握を行い、それに合わせた保育内容が展開できるよう研修を行う。
		①基本的な生活指導	自分の体を守るための生活習慣の大切さを知らせ、自然と身につくようにする。家庭と連絡を密にしながら、取り組むことができたか。	1人ひとりが気持ちよく生活できる環境を園児がつくり出せるよう取り組んだ。さらに、家庭との連絡では、個々の様子を詳しく伝えることで信頼関係が構築できるよう取り組んだ。	A		園児が自分の生活を意識し、楽しく習慣づけることができるような方法を実践した。写真付きのおたよりを作成し、個々の様子や育ちを丁寧に伝えた。	生活習慣において、個々の現状や目標を家庭と共有することで、園だけではなく、家庭でも実践できるよう心がける。
		②環境を通して行う活動の充実	見通しを持って計画的に環境を構成し、また活動の展開に応じて環境の再構成ができたか。	日々子ども達の様子を観察し、興味・関心事を把握することで、個々の実態に合った環境作りについて工夫することができた。	A		子ども達が遊びこめる環境を整え、子どもが主体的に活動し、興味・関心を引き出す、環境づくりを行ってきた。	今後も季節ごとに環境を整え、クラスや学年での取り組みを園全体に広げることで環境を充実させる。

I 教育活動に関するもの

(2) 指導の状況

③個や発達段階に応じた指導	一人ひとりの実態や内面を理解し、指導を展開する。	園児一人ひとりの発達状況を把握しクラスでの様子を見つめることで個々の性格を知り、指導にあたることができた。	A
④遊びを通しての総合的な指導	幼児が主体的に活動したり、充実感を味わったりできるような指導を行うことができたか。	子ども達の興味・関心が出発点となる遊びや子どもが自ら考えたり、試したりすることのできる遊びをのびのびと行った。	B
⑤園行事	園児主体の行事運営ができたか。	新型コロナ感染防止対策を行いながら園行事を進めた。「子ども主体の行事」となっているか、内容や必要性などを検討し厳選した。	B
⑥体力作りを目指す取り組み	子どもを夢中にさせる運動遊びを展開する。	毎週の体育遊びの取り組みから日々の遊びの展開が充実するようになった。その結果各学年で、縄跳びやボールなど年齢に合った運動遊びが自由遊びの中でも広がり、成果があがった。	A
⑦地域での教育活動の充実	地域に出かけ、地域を知り、地域の中で活動し、感じる機会を大切にできたか。	みどりの幼稚園では地域の公園に出かけた。葛城市の農業委員会の支援を受けてサツマイモの苗植を行い、秋には芋掘りを行い焼き芋パーティを実施し地域での教育活動を行った。	B
⑧夢中になって遊び込み、意欲の育つ遊びの充実	質の高い遊び環境を設定し、自由に選択する機会を充実できたか。	遊びの動線を意識し、玩具の数を増やした。さらに園児自身でお片付けができる収納場所を作ることで遊ぶ環境の改善に努めた。	A
⑨絵本やおはなしに親しむ取り組み	絵本やおはなしを1日1回読み聞かせをすることで子ども達が楽しむ機会がつけられたか。	保育時間内に絵本と触れる時間をたくさん設けることで、絵本への興味が広がった。さらに、1日1冊以上読み聞かせを行い、絵本の面白さを知らせることができた。	A
⑩特別支援体制の充実	教職員間で支援が必要な子どもについての実態や課題について共通理解できる体制づくりができたか。	臨床心理士の先生による行動観察を行い、カンファレンスを持ち、実際の援助について検討を加えた。また、療育現場の担当者との連絡をとりより良い支援が行えるよう個々の課題を焦点化した。	A

A

個々の成長や発達に応じた指導のあり方や援助するタイミングなどを考え、実践に移すことで段階的に成長が感じられた。	全教職員間で個々の子どもの発達段階を共有し、園としてどう見守っていくのかを考え、一貫した指導ができるようさらに研修を深めたい。
子ども達の生活を見直し、自由保育と設定保育のバランスを再考しながら、遊び込むための時間の確保に努めた。	自由遊びの中で様々な経験できるように工夫していきたい。また教員が子どもたちの活動から一人ひとりの姿を読み取る力もつけていきたい。
子ども主体の行事を行い、新型コロナウイルス感染防止対策に配慮した行事を検討し、実施した。	新型コロナウイルス感染防止対策をしながら園行事を行ったが、園生活を見たいと願う保護者の理解を得るのは難しかった。今後は、保護者の希望に寄り添いながら園行事を行う。
普段の遊びの発展として運動会の種目を作っていった。また、子ども達が自分から積極的に体を動かし、縄跳び、鉄棒、ボール遊びなどで遊ぶ姿が見られた。	体育遊びの講師先生による研修を実施し、楽しい運動遊びや体力づくりについて、アドバイスをもらいながら展開する。
地域に出かけたり、地域の人との交流する機会を持つことにより地域の良さや地域の人々のやさしさに触れることができた。	来年度、新型コロナウイルスが落ち着けば、安心できる環境の中で、地域を知る機会をもっと増やしていきたい。
子ども達が夢中になって遊びこむ姿が見られた。今後も、自分なりの目標を持って、考えながら遊ぶ環境の設定を行いたい。	子ども達の動きを見て、園庭を改良したり、新しく作るものを考えたりしながらよりよい環境に整えていきたい。
個人が読んだ本を読書カードに記入することで、自分の頑張りが見え、絵本に親しむことができた。本園は、様々な絵本が豊富に用意されており、園児にとって良い環境となっている。	保護者に絵本の修理をしていただいたことにより、園児に人気のほんがよみがえった。これからも絵本の貸し出しの充実や、よりよい絵本の精選に努めたい。
配慮の必要な園児の実態を職員全員が把握できるよう努めた。情報交換を密にすることでその子に合った配慮を行った。	全職員が個々の配慮の仕方について共通理解を行った。支援が必要な園児が増えてきているので個人への対応や、方法など共通理解が必要である。

【奈良文化幼稚園】令和3年度 学校評価 自己評価書 II 幼稚園経営に関するもの

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	①組織の一員としての在り方	教職員全員でひとつのチームであることを意識している。	園運営や行事の目標に向けて全員で取り組んでいる。自分の役割を把握して意欲をもって活動することができた。	B	B	行事等経験ある教員が増え、段取りを組む力がついてきた。しかし、日常保育においては、さらに連携を深めて保育に取り組む必要がある。	教職員がキャリアを越えて保育の楽しさを語り、園児一人ひとりを見つめていきたい。
		②幼稚園経営目標・方針	具体的な経営目標、実態、数値目標について、共通認識ができ、募集活動を積極的に行う。	体験入園については、コロナ対策を講じての実施となった。回数よりも中身の濃い取り組みを行い、成果をあげることができた。	A		定員を減らす予定であったが、入園希望者が多く、当初の入園定員数より大幅に増加した人数となった。	アンケートでは、園選びのポイントとして教職員を挙げている人が多かった。明るく、元気に幼稚園の楽しさや保育の様子、教育的意義を伝えていきたい。
		③教職員の適正配置と職員の運営への協力意識	園長や主任に報告・連絡・相談を行い、議論の上決定したことは、協力し実行している。	必要に応じ、報告・連絡・相談して力を合わせることを全教職員が意識して業務にあたった。	A		行事担当以外の教員も進捗状況を随時把握して、必要なことに気づいた教員が動く協力体制をとることができた。	職員会議での話し合いを通じて共通理解を行い、誤りがないように情報の共有を図っていかねばならない。
		④園務分掌等の連携	各委員会、係では必要に応じて協議・分担して、効率よく運営を進めている。	園務を分担して業務遂行を図った。内容によっては不慣れなところもあったが、全員が協力して取り組んだ。	B		十分に準備を行うことができない場合もあり、効率的に行事の準備ができないケースがあった。	教職員全員が常に全体を見渡し、不足している部分、遅れている部分について、協力できる体制を整えていきたい。
		⑤会議の運営と位置づけ	仕事を分担することで円滑な園務遂行を図ったが、分掌により、十分に機能していないことがあった。	全員が参加する職員会議の時間を大切に、会議がスムーズに進むよう内容を検討し、共通理解を図った。	B		会議の内容については、できる限り変更が無いよう慎重に議論を行った。変更があった場合はしっかり情報伝達ができるよう取り組んだ。	会議の時間を縮小するため、会議前に案件を提出し、事前に目を通すことで短時間で中身の濃い会議を実施したい。
		⑥職場の人間関係	教職員全員が親しくつき合い、偏った人間関係を作らない。	コロナ禍ではあるが人間関係を深める場を定期的に設けるなど、コミュニケーションを大切にできた。	A		意見交換を行うことで教育に対する視野が広がり、多くの視点から教育を見つめることができた。	今後も一人ひとりが積極的な意見交換ができるような人間関係を築き、更なる園務の充実を図りたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
Ⅱ 学校経営に関するもの	(2) 研修	①園内研修	自園のテーマや重点項目等を決め、継続的な研究を行い、教育内容の質の向上や改善を図っている。	わんぱくの森の改良に向けて外部講師を定期的に招き、園内研修会を実施した。認定こども園移行についても、講師による研修を行った。	A	A	外部講師から示唆をいただくことで新たな視点を持つことができ、教職員の力量向上につながった。	継続的に教職員の研修を行い、バランスのとれた保育を目指し、教育の質の向上に努めたい。
		②園外の研修への参加	今日的課題に関する研修や研究に関心を寄せ、出来る限り積極的に学習の機会をもつ。	わんぱくの森計画を十分活かせるように先進園の研修に積極的に参加した。認定こども園移行についても見学を行い、実際の保育について研修を行った。	A		先進園を研修した内容を基に、本園に合ったものにアレンジして保育を行うとともに、今後の保育について検討を重ねている。	他園で学んだ内容を報告書にまとめるだけでなく、職員全員が共有する機会を作り、一人ひとりの力量を上げる。
		③研修成果の普及	個人の研修成果を保育や行事の中で活かし、園全体の教育力の向上を図る。	研修で学んだことを園内で報告し、教育目標に沿った形で保育に取り入れることができるか全員で話し合った。	B		他園での取り組みを学んだ教職員を中心に、保育を見つめなおす機会を持つことができた。	実践を通して子どもの活動状況を把握し、見えてきた改善点や反省点を共有し、環境を改善していかなければならない。
	(3) 安全管理	①安全計画の立案	危機を想定し、子どもとともに訓練を実施する。	危機管理マニュアルの見直しを行い、訓練を実施した。	A	A	本年度も事前に打ち合わせを行わずに訓練を実施することで、問題点をあぶり出し、確認する機会を作った。	教職員一人ひとりが自分の役割をしっかりと把握し、子どもの安全を第一に安全計画を把握する。
		②安全指導実施状況と改善策	教職員、園児を対象に、安全指導を行い、確認・改善に努めている。	火災・地震など様々な場面を想定した訓練を行うことができた。	A		様々な状況を想定した訓練を実施することで安全指導の改善を図ることができた。	今後は、園児引き渡しカードを使い保護者を含めた合同訓練なども今後検討して行きたい。
		③危機管理マニュアル	学園としての危機管理計画に基づき、自園の防災計画を見直す。	危機管理マニュアル及び園の防災計画を見直し、特に教職員の役割分担を徹底して確認した。	A		訓練実施時に教職員が実際にとった行動に対して意見交換を行い、自分が気づけなかった問題点を指摘し合うことで、まとめ直しを行った。	教職員が状況に合わせて、一人ひとりが自分で考え、素早い対応ができるよう取り組みを進めたい。
		④関係諸機関との連携	警察・消防署・市役所等公的機関との連携を図る。	消防署や火災報知器業者と一緒に安全確認するなど連携を深めた。	A		消防署員から実際に指導を仰ぎ、安全対策や緊急時の対応を学ぶことができた。	昨年同様、訓練を定期的に取り入れることで、対応の仕方について指導を受けることが出来た。今後も関係諸機関と連絡を密にして連携していきたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(4) 保健管理	①健康診断の立案と実施(関係機関との連携)	保健所・園医との連携を図る。	園医との綿密な連携の下、園児の健康状態について指導を受けた。	A	A	園医と密に連絡を取って相談することで、園児のコロナ感染時も状況に即応した対応をとることが出来た。	今後も、子ども達が安全で健康に生活できるように、園医や保健所との連携を密に日々安全な生活を心がけたい。
		②家庭との連携	流行病や予防策など保健だよりで伝える。	コロナウイルス対策はもとより、園からのお便りでは考えうる流行病の予防策や、日常の手洗い・うがい・消毒等を家庭に呼びかけ、子ども達の健康を守った。	A		流行病による情報や園としての今後の対策などの情報発信を速やかに行い、家庭と協力して安全対策に務めた。	今後も、コロナウイルス対策を中心に流行病に関する情報について、保護者が知りたいと思う内容を迅速に発信したい。
	(5) 地域との連携	①地域との交流	「開かれた幼稚園」としての取り組みを計画、実践する。家庭、地域との連携の機会を計画、実践する。	葛城市農業委員会の方とお芋の苗植え、お芋掘り等交流を行った。コロナ禍の中、安全対策を講じてできる交流について検討を続けた。	A	A	地域の方ときちんと元気な挨拶をするなど、園児の態度についても評価をいただき、地域の中で活動している実感がもてた。	地域の方々に協力をいただきながら地域のすばらしさ、人々のあたたかさを知る機会を増やしたい。
		②PTAの活性化	本部役員、クラス役員、各クラブとの連携を強化する。	PTA役員の方々には大きな行事(ゆっくりっくお楽しみ会)を企画・運営していただき園児たちは大喜びであった。PTAのクラブ活動も園の行事に組み入れて計画し、連携を強化した。	A		本部役員、クラス委員と園が密接に連携を重ね、積極的に活動することで、PTA活動が充実したものになった。今後も一緒に活動を続けていきたい。	園の行事内容を早めに保護者に連絡し、計画・準備を行うことで、連携が取りやすい環境を作っていく。
		③幼小連携	今日的課題に向き合い、就学に対する不安を解消する。	小学校との連絡会に参加してその結果を持ち帰り、園内で共有することで園児の就学に対する不安解消に努めた。	B		県内各小学校と連絡を密にすることで就学の情報共有に努めた。	就学先は多岐にわたるので時間は費やされるが、園児が安心して就学できるように、情報を密に連携を深めていく。
		④関係者評価の実施	保護者アンケートの結果を知らせる。	3学期に保護者から園の保育内容に関するアンケートを実施し、結果報告を行った。	A		自己評価及び園教育アンケートを基に、学校関係者評価を実施し、本園が取り組まなければならない改善点を指摘していた。また、地域の人を含めた第三者評価を実施していきたい。	保護者会や入園説明会で園の方針や認定こども園への移行について有効な説明方法を考える。また、地域の人を含めた第三者評価を実施していきたい。
	(6) 施設・設備	①施設、設備の管理	責任をもって、清掃・点検・後始末をする。	日々、各学年で担当箇所を決めて清掃や点検を行っている。	A	A	園庭や保育室を園児と一緒に清掃し、きれいな環境を心がけることで、一人ひとりが責任をもって取り組むことができた。	子どもたち自身も環境に対する美化意識を持ち、担当場所を毎日確認し、清潔に維持できるよう取り組む。
		②遊具、用具の活用状況と全体管理	安全に活用できるように点検、整備をする。	園児が登園する日は保育が始まる前に、遊具の安全点検を行い、速やかな修繕対応ができた。	A		教職員で点検及び修繕を行っている。遊具の老朽化については園児の安全を第一に、業者とも連絡をとり改修に努めている。	専門家の見地からアドバイスもいただきながら安全性を保っていききたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
Ⅱ 学校経営に関するもの	(7) 情報管理	①公文書の收受、保管	分類して、必要な時にすぐ出せる状況にする。	細かく分類して文書を保管し、必要な時にすぐ参照することができた。	A	A	ファイルを利用して細目ごとに区別して分類しており、見やすくしている。	PCを活用し、効率よい情報共有を展開していく。
		②公文書の作成	速やかな対処をする。	期日を厳守することはもちろんだが、極力速やかな文書作成に努めた。	A		幼児教育無償化により煩雑な事務処理を確実に進めることができた。	保護者に丁寧に説明し正確に処理していきたい。
		③個人情報の管理、保護	個々の子どもの情報、保護者、家族の情報は口外していない。	個人情報の取扱には細心の注意をはらい、不要な情報が伝わらないよう全教職員が努めた。	A		不特定多数が対象のホームページでの発信も含め、細心の注意をはらっていたので、特段の問題はなかった。	PCデータにパスワードをつけるなど、徹底管理していく。
		④情報の収集	園運営上必要となる情報を積極的に収集する。	行事後の記事掲載など、情報発信を速やかに行うことができた。	A		スマートフォンからでも情報が見やすいように改善しており、募集力の向上にも繋がっている	掲載する情報がPC版と携帯版で異なることがあったので、担当者は必ず確認するよう心掛ける。